

はじめに

この研究資料は 2005 年度に兵庫県立大学の特別研究として行った「人口減少下の超高齢地域コミュニティについて」の共同研究の報告である。

この研究では、老年人口比率が高い地域として香川県栗島を取り上げ、その歴史的な経過を明らかにすると共に、コミュニティの運営、介護サービスを含めそこでの住民の生活がどのように維持されているかを調査したものである。また、将来の島の産業として期待が寄せられている観光についても調査をした。さらに、ほとんど高齢者のみの島となった隣島志々島についても調査をおこなった。

そのために、5回の現地ヒアリング調査と2種類のアンケート調査（高齢者対象と宿泊施設利用者対象）を行った。また、栗島を含め瀬戸内の離島の各種統計を収集・整理した。

調査に当たった研究チームの正式メンバーは次の5名である。

経済学部教授 秋吉一郎、経済学部教授 植野和文、経済学部教授 木村良夫、
経済学部教授 松浦昭、経営学部教授 井内善臣

この他に、大阪国際大学短期大学部准教授の前川昌子さんが、実質的に共同研究者として、研究会と現地調査に参加してくださった。前川氏には、高齢者の生活に関するアンケート調査を中心になって担当していただき、その部分の報告を執筆いただいた。

また、現地調査に当たっては、10年余り前に神戸から栗島に移住し、当時島の連合自治会長をされていた元山裕雄氏に大変お世話になった。島での聞き取りに同行していただいたり、栗島に関連した資料を貸していただいたりした。連合会長の任を降りた後も、元山氏は島の活性化のためにさまざまな活動をされていたが、昨年12月急病のために亡くなられた。元山さんは、私たちの研究に島の活性化のヒントを期待されており、「報告書はいつできるのですか。早く出してください。」としばしば言われた。元山さんの生前にこの報告書を出すことができず本当に申し訳ない気持ちがいっぱいである。栗島のために晩年のすべてをささげ、私たちの研究に協力を惜しまなかった元山さんに感謝すると共に、ご冥福をお祈り申し上げます。

さらに、公民館栗島分館長中田勝久さん、老人会会長山北友好さんおよびその他の栗島の住民の方々、岩崎病院院長先生、三豊市役所・香川県庁の職員の方にも大変お世話になりました。ここに記し、お礼申し上げます。

2007年6月14日
研究代表者 木村良夫